

## 令和2年度第1回米沢ブランド戦略会議 会議録

1 日 時 令和2年9月28日(月) 14:00～16:00

2 場 所 米沢市役所7階701会議室

(出席委員)

戦略会議：柴田正孝会長、宮坂宏副会長、近藤哲夫委員、今村元一委員、坂川好則委員、鈴木里佳委員、五百川満委員、佐々木裕孝委員、吉澤彰浩委員、新田源太郎委員、安部宏海委員、奥山佳奈委員

博報堂：石川美子氏

事務局：菅野紀生産業部長、根津米沢ブランド戦略課長補佐兼米沢ブランド推進主査、佐藤米沢ブランド戦略課主任

アドバイザー：武発米沢ブランド戦略アドバイザー

### 3 会議録(要点のみ)

(1) 開会

(2) 委嘱状交付

(3) 議事

(会長)

・今年のAWARDは中止となったが、この動きは止めずに繋げていこうと考えていただいたことをご説明いただき、皆様からご意見をいただきたい。

・議事第1番、令和2年度第1回米沢ブランド戦略事業の今後の取り組みについて。①事業強化“挑戦”ワークショップ&セミナーについて。②米沢ブランド番組の制作について。

※事務局、資料②、③について説明。

(会長)

・セミナーとワークショップを行い、動き続けていくということ。もう一つはマスメディアに向けて、地域の人々に対してアピールする。

・これらの話について、皆様からご意見を頂戴したい。

(委員)

・実際にワークショップに行かれた方だけではなく、例えばブランド戦略会議で「AさんとBさんがコラボすれば面白いものができる」といったヒントを、各TNYに与えるといいのでは？

(会長)

・事前にある程度の情報を武発アドバイザーや博報堂に見ていただいて、可能性のあるものの組み合わせの提案等ご考慮いただけるか？

(事務局)

・単独での課題解決は難しい。情報をいただければ、こちらで武発アドバイザーとも相談しながらメンバーにお願いすることも可能。

(会長)

・実際内発的にそういった動きも出てきている。もっと刺激すれば、いいものやコラボレーションが生まれるのではないかな。

(委員)

・タクシー業界もコロナで大変な状況になっている。前向きな話ができるのはありがたい。この話し合いの中で進めていって、色々な業界とコラボレーションできるといい。

(委員)

・集まりがあると感染のリスクが高くなる。オンラインなどを活用して、動きを止めない方向を検討していただきたい。新しいものに目を向けるのも一つの手法。

(会長)

・各分野で、もう元に戻れないくらいにリモート化が非常に進んでいる。色々なものを活用しながら進めていくことが大事。

(委員)

・セミナーとワークショップは大変いい。ブランドそのものにwithコロナの変化が求められる。そういう観点が一つあると、普遍的なものが出来上がるのではないかな。

(委員)

・セミナーとワークショップに期待。動き出すにあたっていきなり集まって始めるよりも、段階的にこれらを経験しながら動く方がいい。ワークショップでもオンラインの活用をするといいのでは？ 参加していない人でも、何をやっているのかオンラインで見られるようにすれば、それがきっかけで参加を検討する人もいるかもしれないので、オンラインで参加者の輪を広げてほしい。セミナー&ワークショップで出たアイデアもオンラインで発表するといい。米沢市にいなくても参加しやすくなるように、オンライン活用を考慮していただきたい。

・アピール自体が非常にしにくい状況なので、番組制作などメディアと協力しながら、目に触れる機会を増やすことは必要。

(委員)

・セミナーとワークショップはいいと思うが、今の状況だと参加したくてもできない人もいますので、映像なり文面なりで参加できなかった人も閲覧できるようにして、目を通してもらう機会を与えて次回以降の参加のきっかけを作るのはどうか。迷ったり悩んだりしている人にも、触れられるものがあるとい

い。

(会長)

- ・委員の提案の実現は可能か？

(事務局)

- ・物理的には可能だが、研修の内容を公開するのは難しい。内部で検討させていただく。

(委員)

- ・セミナーやワークショップ、テレビ番組の制作で、色々と経済を回して商機を探すということで、第一次産業も活性化に繋がればいい。

(委員)

- ・コロナにより生産業は打撃を受けている。ものづくりをやるにしても、作り方を変えてみたり、新たに作れるものを考えてみたり、数値にしないといけない。発想を転換しないとものづくりは置いていかれる。セミナーで、色々なアイデアを出して聞いていかないといけない。
- ・昨年からはセミナーやワークショップに参加させていただいていたが、170団体いる中でワークショップに参加している企業は限定的。170団体もいるのに参加しているのは2、30程度なのは非常にもったいない。どうすれば各社に気づきを得ていただけるか。チーム戦と言われても、集合していきなりチームになるのは難しい。一度一方的なレクリエーションを矢島さんや永井さんから言っていたかかないと、チームは作れないのではないかと。新しいことをやらなければならないのはわかるし、実際ワークショップなどの具体的な作業をしないと新しいものは生まれてこないが、いきなりやり方を変えるのであれば、前段階をきっちりやらないといけない。

(会長)

- ・一度事前に見ていただいて、組み合わせの可能性やアイデアを、専門家も交えながら相談する。具体的なアイデアを出すには、具体的な素材がないと難しい。事務局で前段を揉んでいただき、ケーススタディをいつか出していただきたい。
- ・リモートやオンラインというが、糸偏の方はそれに加えて本物の色や素材感などリアルでないと無理なので、100%オンラインというわけにはいかない。言葉などの情報はリモートでできるが、品物はリアルでないと伝わらない。少しでもリアルが可能にならないと、AWARDも難しい。前段とケーススタディと重ねてお願いしたい。

(委員)

- ・コロナ禍で一番影響を受けているのは観光。人が動く産業なので、他業種のようなWebやオンラインへの持っていく方が難しい。

(委員)

・コロナ禍により、コミュニケーションの時間がなくなってきている。セミナーやワークショップをきっかけづくりにしなければならない。あらゆる面で不都合が生じており、これからは出口となる戦略が大事になる中で、セミナーやワークショップは問題提起をして一緒に考える、いい場になるのではないかと。コロナによって働き方や住空間が変わり、流れが変わってきているので、米沢ブランド戦略事業も継続しつつ、少しずつ中身を変化させていかなければならない。リモートでどこにいても仕事ができるようになる世の中で、米沢市全体がブランド化を図ってブランド力を出すことが、ブランド事業を長く広めていくことになるのではないかと。

・TNY170団体が何をやりたいのかアンケートを取り、同じような内容を書いた企業や団体が集まってワークショップをして、「こういうことができる」という人とコラボするのもいいのではないかと。

(会長)

・事前に各社に具体的な話を聞いて、組み合わせを決めるのはありだと思う。申請から今まで動きが見えないところに対して、どのような方向で検討しているのか、どういうことをやりたいのか聞くのはあり。ご意向をいただきたい。

(委員)

・今年はAWARDができないが、セミナーやワークショップを通して、TNYが何をやるかが肝要。コロナ禍の中で、セミナーの内容がどうなるか想像もできないが、単なるコロナ対策か、抜本的なブランド戦略か、もしくはその両方か、着地点を決めないと普通の勉強会で終わってしまう。ワークショップに関しては、チームよりも大きく捉えると、地域を語るうえで「こういう人の視点があった方がいいものが生まれる」というような発想法に使える。「AさんとBさんを組み合わせる」というのもありだが、皆が集まって全く違う会社について語っても面白いのではないかと。発想の転換や発想トレーニングのようなワークショップであってもいい。

・もう元には戻らないと思っている。考え方を柔らかくして、新しいものを生み出そうとする年であってもいい。宮城県ではワーケーション協議会というものが発足され、新しい生活様式に対応した新しい事業者モデルを作ろうと、ワークとバケーションを組み合わせるものを作り、プラットフォームやインフラなど皆で考えようとする動きが出てきている。今までの延長線ではなく、皆で考えれば全く新しい価値観が生まれる可能性があるから、今年はそういう年にしていきたい。

(会長)

・現在だと従来型の企業誘致ではなく、スタッフ部門も全部ひっくるめた企業誘致になってきており、三密を免れない必然性が薄くなっている。今こそ、何十年前に作った全総計画が進むべきだと言われている。市役所だけで叶うことではなく米沢市全体のブランド化なので、市全体で参加してもらって、「色々な食べ物おいしい」などを目指して大きな話題になることが、米沢ブランドのテーマになるのではないかと。

(委員)

・全くまっさらな中で、ビジネスや街について考えるチャンスだと思っているので、火種がここであってほしい。

(委員)

・コロナ禍で色々な活動が自粛されている中、今だからできることとして、学びを深めたいなどの理由で私もセミナーを提案した。セミナーを通して異業種の人とも情報を交わすことで、企業活動の活量になればいいし、TNYに登録していない人にこの活動が有益だとPRできたらいい。

(委員)

・リアルでないと大変だという意見があったが、実際手に取らなくても食べ物や着物の質感などを体験できるなど、リアルとバーチャルが限りなく融合している。今までの世代を飛び越えた発想が必要なのではないか。色々な発想を練るためのワークショップではなく、ビジネスに繋がるような、実現可能な新しいビジネスが生まれることも視野に入れてワークショップをしないといけない。数ある企業の中で一、二例は必ず出てくるような仕組みづくりをお願いしたい。

(会長)

・色々な視点で具体的な踏み込みがあったので、事務局側からもご意見を伺いたい。

(事務局)

・コロナ禍でリアルなコミュニケーションが減少している。メディアから流れてくるのも切り取られた情報で、真実がどうなのかわからない。リアルに知ろうとしない中で、リモートワークは都会ではどのように行われているのか、リモートではない状況は今どうなっているのか、コロナ禍で企業や人々が悪化している状況など、ひとまず知っておくということが大事。消費拡大キャンペーンなど開催しているが、皆どちらかというところ縮こまって様子を見ている。実際どうなっているのか、自分たちの将来にどのような影響を与えるのか、ちゃんとした情報を共有し、横同士で話し合うのが貴重。米沢はそれができる領域の人々が集まってTNYに登録しているので、この中から今までの延長線上ではない新しい米沢のブランドや街、どのような暮らしでどのようなテイクケアをして将来に向かうか、発想が種に出てくると挑戦と創造に相応しい活動になるのではないかな。

(会長)

・ただセミナーやワークショップをやるのではなく、結果を出すように取り組みたい。

(事務局)

・市内の事業者の苦勞や危機感を感じている。我々だけでなく事業者も、新たな取り組みを始めなければならない。特に事業者は、既成概念を取り外して新たな取り組みにチャレンジしなければやっていけなくなるだろう。ちょっとした発想の転換や変化で、中小企業が大化けすることも可能であるが、そのネタ探しが難しい。様々な形での異業種交流による気づきも必要。その意味では挑戦と創造ワークショ

ップはやる価値がある。組み合わせるなら、事前に実現に結びつけるある程度の調査も必要。

・皆さんの取り組みの中から成功事例を生み出すことで、市民にも「やらなければならない」と改めて気づいていただき取り組んでいただく、そんなモデルケースを作りたい。様々な取り組み、考えを発信していただき、我々もサポートしていきたい。

(事務局)

・コロナ禍におけるAWARDについては、各位から意見があった。やるべきだという意見もあれば、こんなときにやるべきではない、という意見もあり、最終的にAWARDは来年ということになった。7月からTNYの状況を確認して、どういったことが必要なのか、どういったことが求められているのかを調査してきた。リモートで参加したい、半日コースで行うなど多くの意見を頂戴し、今日いただいた意見も「やっぱり」と思うものがあった。この活動を継続していかなければならないという思いはTNYメンバーも我々も同様なので、今日いただいた意見を参考にしながらより良いものを目指し、来年度に繋がるような事例を目指していただきたい。

(会長)

・具体的な手立てを打たないとそのままになってしまうので、ワークショップをしても素人だけでは意見やアイデアは出ない可能性もある、専門家なども交えながらのブレインストーミングを、テーマづくりに裏ワークショップ的にやるのはどうだろうか？ そこから皆さんの意見を統合したセミナーをやる。ワークショップの前に、テーマづくりのための事前ワークショップをやるべきではないか。できればワーキンググループから専門的な見地を持った方を呼んでできないか、具体的なご検討をお願いしたい。

・仕方ないことだがTNYの登録はかなり低下した。色々宣伝してもらっているが、活動をそのまま外部に発信しているだけなのでわかりづらい。今回の事業を契機に再び火を起し直さなければならない。

(委員)

・ロードマップの中に、今年最後の締めとしてアイデア発表会があるが、ある程度事務局側で何か仕込むのか？ また、ここが目標になるのであれば、創業を一つ作るくらいの思いがあってもいいのではないか。

(事務局)

・2月の「未来のAWARDの種を生み出そう」については、新たな挑戦と創造ワークショップの中で温まってきたものが発表できるものになればいいと思っていた。委員のお話で、いきなりそこまではいかないところが多いことがわかったので、そこについてはプロジェクトや専門家などと相談しながら、今の米沢の中で何ができるか、2月の発表会に頭出しできればいい。

・その後の創業については考えていない。3か月で何か創業できたり、食べ物ができたりすることはあり得ないと思っている。ただ、アンケート調査や企業訪問させていただいたときに、動きを止めないでほしい、未来への光や希望が欲しいという意見を多く頂戴したこともあり、今できることとして事務局が組み立てたロードマップとなる。

(委員)

・青分テキスタイルのn i t o r i t oは非常にスピード感を持って取り組んでいるので、3か月もあれば皆で考えた成果物を世に送り出せるのだという発表会くらいできると、何がいかずっと考えるより目標が見えていいのではないか。

(事務局)

・n i t o r i t oは去年AWARDの一次審査を突破し、今年は独立までして実績を高めようとしており、非常にスピード感がある。委員の提案したトリップア라운드なども利用しながら、売り出せていけるといい。結果的にそれが一つの成功事例となり、「米沢市が言いたいのはこういうことだ」と捉えられるものができるといい。これについてプロジェクトメンバーと再度検討させていただく。

(委員)

・裏ワークショップを事前に行うことでスピード感も上がる。企業にとってはスピード感が命なので、それを助けるためにも裏ワークショップは必要。置賜総合支庁の地域コーディネーターなどの方々も補助金を介して、選考に向けて芽が出やすい環境を作ってあげる。色々な成功や失敗事例を知っているので、助けがあれば事業化しやすい。そういうメンバーも入れて進めていただきたい。

(会長)

・必死のところは自らやっている。例えば雪割納豆かんずり入りも、コラボレーションによる商品。吉亭と第一ホテルも、組み合わせさせて新しい取り組みを始めている。専門家の知見と実践者の力を得られるメリットが大きい構成で組み合わせたい。ネタはあっても、展開力や資金がないという企業はたくさんあると思うので、あまねく駆け回るブランド戦略を念頭に置きながら取り組めば、いい1年を繋げられるのではないか。

・今回の意見等々を取り入れて、有意義な米沢品質向上運動にしていきたい。

(事務局)

・以上で米沢ブランド戦略会議を終了する。